

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-169	21-302	慶應義塾大学 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
Reducing the Global Burden of Alcohol-Associated Liver Disease: A Blueprint for Action アルコール関連肝疾患の世界的な負担を軽減する。行動のための青写真		
執筆者		
Sumeet K Asrani ¹ , Jessica Mellinger ² , Juan P Arab ³ , Vijay H Shah ⁴		
掲載誌		
Hepatology 2021 May;73(5):2039–2050. Doi: 10.1002/hep.31583.		
キーワード		PMID
アルコール性肝病変、アルコール使用障害、世界的負担		32986883
要 旨		
<p>アルコール関連肝疾患 (ALD) は、世界の肝臓関連の罹患率と死亡率の主な要因となっている。飲酒者は 24 億人 (大酒飲み 9.5 億人)、あらゆるアルコール使用障害 (AUD) の生涯有病率は 5.1%~8.6%である。2017 年、アルコール関連代償性肝硬変および減圧性肝硬変の世界有病率はそれぞれ 2360 万人、250 万人であった。アルコール関連肝硬変と肝臓がんを合わせると、世界の全死亡者の 1%を占め、この負担は増加すると予想されている。この拡大する疫病に対する解決策は、多面的であり、集団レベルと患者レベルの両方の介入に焦点を当てる必要がある。ALD 関連の罹患率と死亡率を減少させるには、早期発見と介入、人口レベルでのアルコール消費量の減少 (課税、入手可能性の減少、販売促進の制限)、地域の社会経済的現実に合わせて解決策 (記録に残らないアルコール消費、青少年の重点的教育) に焦点を当てたソリューションが必要である。簡単なスクリーニングツールやアルゴリズムは、アルコール乱用の特定、非侵襲的な血清マーカーや画像マーカーを用いた ALD の診断、高リスクの ALD/AUD 患者のリスク層別化に、人口レベルで適用することができる。ALD の世界的な負担を積極的に軽減するために、新しい医療提供方法とプラットフォーム (遠隔医療、アウトリーチ、非医療従事者の活用、プライマリーと専門医療・三次病院間の連携) が必要とされている。最も高い効果を得るためには、医療と AUD 治療を組み合わせた統合的なアプローチが個人レベルで必要である。今後のニーズとしては、(1) ALD データの質の向上とケアの標準化、(2) ALD と AUD の両方を治療できる革新的な医療提供プラットフォームの支援、(3) 専門肝疾患団体による強力かつ協調的なアドボカシー、(4) デジタル介入の実施推進、などが挙げられる。</p>		